

お台場旧防波堤（2 島）における鳥類のモニタリング調査 冬季調査（1 月）報告書

平成 30 年 2 月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内堤防 2 島及び周辺水域（周辺 50 m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
平成 30 年 1 月 9 日（火）	8 : 00～14 : 00	曇のち晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。

（1）船上センサス

鳥の島の 2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、旧防波堤及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。

（2）ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2 km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50 m（両側 100 m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

旧防波堤の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。



写真1 各調査手法における調査風景



図1 調査地点図

5. 調査結果

(1) 現地調査結果

- 現地調査の結果、10目23科35種の鳥類が確認された（表2）。
- 水域やその周辺に生息する種として、スズガモやカワウ、アオサギ、オオバン、イソシギ、ユリカモメ等18種が確認された。また、モズやシジュウカラ、メジロ、カワラヒワ等の森林やその周辺に生息する種が11種確認された。そのほか、猛禽類であるミサゴやオオタカ、チョウゲンボウ、都市部に普通に生息するキジバトやハシブトガラス、スズメ等も確認された。
- 確認種は、ヒヨドリやスズメ、ハクセキレイ等の留鳥（ある地域で一年中見られる種）と、スズガモやカンムリカイツブリ、ジョウビタキ、アオジ等の冬鳥（ある地域で冬に見られる種）が占めた。
- 船上センサス及び定点観察調査において、確認個体数が最も多かった種はカワウであった（表3・表5）。船上センサスにおいて、2島で合計135個体が（表3）、定点

観察調査において 2 島で合計 128 個体が（表 5）確認された。巣材運びや抱卵等の繁殖行動を確認し、繁殖活動に入ったことが確認された。

- ラインセンサスではスズメの優占度が高く、2 島で合計 123 個体が確認された（表 4）。島内の草地において、キク科やヒユ科植物の種子を採食する多数の個体が確認された。
- 重要種は、スズガモ、カンムリカイツブリ、オオバン、イソシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、モズ、イソヒヨドリの合計 11 種が確認された（表 2）。島周辺の海上では、スズガモ、カンムリカイツブリ、オオバンの遊泳や採食する様子が確認された。護岸等ではイソシギ、イソヒヨドリの採食や飛翔する様子が確認された。島内の樹林では、樹木にとまるオオタカやノスリ、モズを確認し、島の上空ではミサゴ、トビ、チョウゲンボウが確認された。
- オオタカは、船上センサスにおいて島の北側で樹木にとまる個体が確認された。島内を休息や採食場所として利用している可能性がある。
- 島内の利用が確認された重要種のうち、特に保全上の重要度が高い種としては、オオタカが挙げられる。オオタカは東京都の絶滅危惧 IA 類に該当する貴重な種である。

（2） 前回調査との比較

- 平成 28 年の秋季（10 月）～平成 29 年夏季（7 月）までの調査を第 2 回、平成 29 年秋季（10 月）以降の調査を第 3 回とし、第 2 回と第 3 回の冬季調査の結果を比較した。確認種数は、第 2 回では島の北側（以下、北側）で 30 種、島の南側（以下、南側）で 27 種、合計 34 種が確認された。第 3 回では北側で 28 種、南側で 31 種、合計 35 種が確認された（表 6）。第 3 回の確認種のうち、約 7 割（27 種）は第 3 回でも確認されており、鳥類相に大きな変化は見られなかった。旧防波堤における冬季の鳥類相の特徴としては、スズガモ、カワウ、ヒヨドリ、スズメの個体数が多い傾向が見られる。
- 第 3 回では、森林性の種であるアカハラ、シロハラが確認されなかった（表 7）。両種はともに、森林や暗い藪等の閉鎖的な環境を好む種である。一方、草地等の開放的な環境を好むチョウゲンボウ、ムクドリが冬季では初めて確認された（表 7）。
- 種数及び個体数の変化について、調査手法別に比較を行った（表 8～表 10）。その結果、第 3 回ではヒヨドリが減少した一方で、スズメは増加していた。
- 第 3 回では、島内の草刈りが徹底して行われたことで、草丈が低い開放的な環境が増加した。そのため、開放的な環境を餌場として利用するチョウゲンボウやムクドリが確認され、同様の環境を採食場所として利用するスズメも増加したものと考えられた。その一方で、休息や採食場所である樹林や藪環境が減少したことで、アカハラとシロハラは確認されず、ヒヨドリも減少した可能性が考えられた。

表2 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期		重要種選定基準			
				冬季(1月)		①	②	③	④
				北側	南側				
1	カモ	カモ	オカヨシガモ		○				
2			マガモ		○				
3			カルガモ	○	○				
4			オナガガモ	○	○				
5			ホシハジロ		○				
6			スズガモ	○	○				留
7	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	○	○				留
8	ハト	ハト	キジバト	○	○				
9	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
10	ペリカン	サギ	アオサギ	○					
11	ツル	クイナ	オオバン	○	○				VU
12	チドリ	シギ	イソシギ	○	○				VU
13		カモメ	ユリカモメ	○	○				
14			カモメ	○					
15			セグロカモメ	○	○				
16			オオセグロカモメ	○	○				
17	タカ	ミサゴ	ミサゴ		○			NT	EN
18		タカ	トビ	○	○				NT
19			オオタカ	○				NT	CR
20			ノスリ	○					EN
21	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○				EN
22	スズメ	モズ	モズ	○	○				VU
23		カラス	ハシブトガラス	○	○				
24		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
25		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○				
26		ウグイス	ウグイス	○	○				
27		メジロ	メジロ	○	○				
28		ムクドリ	ムクドリ	○	○				
29		ヒタキ	ツグミ	○	○				
30			ジョウビタキ		○				
31			イソヒヨドリ		○				DD
32		スズメ	スズメ	○	○				
33		セキレイ	ハクセキレイ	○	○				
34		アトリ	カワラヒワ	○	○				
35		ホオジロ	アオジ	○	○				
合計	10 目	23 科	35 種	28 種	31 種	0 種	0 種	2 種	11 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は以下の通りである。

①文化財保護法(昭和25年、法律第214号)

天:天然記念物 特:特別天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号;平成23年改訂)

国内:国内希少野生動物 国際:国際希少野生動物

③「第5次レッドリストの公表について」(平成29年、環境省)における掲載種

NT:準絶滅危惧種

④「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」(平成25年、東京都)における区部の掲載種

CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危 DD:情報不足 留意:留意種

表 3 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				冬季(1月)		
				北側	南側	
1	カモ	カモ	オカヨシガモ	0	2	2
2			マガモ	0	6	6
3			カルガモ	0	7	7
4			オナガガモ	2	0	2
5			ホシハジロ	0	4	4
6			スズガモ	25	32	57
7	ハト	ハト	キジバト	0	4	4
8	カツオドリ	ウ	カワウ	45	90	135
9	ペリカン	サギ	アオサギ	1	0	1
10	ツル	クイナ	オオバン	1	7	8
11	チドリ	カモメ	ユリカモメ	2	5	7
12			セグロカモメ	1	1	2
13			オオセグロカモメ	0	1	1
14	タカ	タカ	トビ	0	1	1
15			オオタカ	1	0	1
16			ノスリ	1	0	1
17	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	2	3
18		シジュウカラ	シジュウカラ	4	2	6
19		ヒヨドリ	ヒヨドリ	9	7	16
20		ヒタキ	ツグミ	0	2	2
21		スズメ	スズメ	7	0	7
22		アトリ	カワラヒワ	5	4	9
合計	8 目	13 科	22 種	105	177	282

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				冬季(1月)				
				L1(北側)		L2(南側)		
				個体 数	優占 度	個体 数	優占 度	
1	ハト	ハト	キジバト	3	2%	9	6%	12
2	カツオドリ	ウ	カワウ	27	22%	22	15%	49
3	チドリ	カモメ	ユリカモメ	1	1%	26	18%	27
4			セグロカモメ	1	1%	0	0%	1
5	スズメ	モズ	モズ	0	0%	1	1%	1
6		カラス	ハシブトガラス	1	1%	2	1%	3
7		シジュウカラ	シジュウカラ	2	2%	2	1%	4
8		ヒヨドリ	ヒヨドリ	10	8%	10	7%	20
9		メジロ	メジロ	2	2%	0	0%	2
10		ヒタキ	ツグミ	0	0%	20	14%	20
11		スズメ	スズメ	70	57%	53	36%	123
12		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	0	0%	1
13		アトリ	カワラヒワ	2	2%	2	1%	4
14		ホオジロ	アオジ	2	2%	1	1%	3
合 計	4 目	13 科	14 種	122	100%	148	100%	270
				12 種		11 種		14 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 定点観察調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				冬季(1月)				
				北側		南側		
				P1	P2	P3	P4	
1	カモ	カモ	オカヨシガモ	0	0	0	2	2
2			スズガモ	2	1	1	0	4
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	1	0	2	0	3
4	ハト	ハト	キジバト	0	0	0	17	17
5	カツオドリ	ウ	カワウ	27	12	75	14	128
6	ツル	クイナ	オオバン	1	0	2	0	3
7	チドリ	シギ	イソシギ	0	1	1	0	2
8		カモメ	ユリカモメ	7	0	14	27	48
9			セグロカモメ	3	0	0	0	3
10	タカ	タカ	トビ	0	0	0	1	1
11			ノスリ	1	0	0	0	1
12	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	0	0	0	3
13		シジュウカラ	シジュウカラ	2	1	0	0	3
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	6	2	1	9	18
15		ウグイス	ウグイス	0	1	0	0	1
16		ヒタキ	ツグミ	0	2	0	0	2
17			イソヒヨドリ	0	0	0	1	1
18		スズメ	スズメ	0	0	23	4	27
19		セキレイ	ハクセキレイ	1	0	0	0	1
20		アトリ	カワラヒワ	2	0	0	0	2
21		ホオジロ	アオジ	2	0	0	0	2
合計	8 目	17 科	21 種	58	20	119	75	272

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 (1) 前回調査結果との比較 (冬季)

No.	種名	第 2 回 (H28-29)		第 3 回 (H29-30)	
		冬季(1 月)		冬季(1 月)	
		北側	南側	北側	南側
1	オカヨシガモ				○
2	マガモ	○			○
3	カルガモ	○		○	○
4	オナガガモ			○	○
5	ホシハジロ				○
6	スズガモ	○	○	○	○
7	カンムリカイツブリ	○	○	○	○
8	ミミカイツブリ	○			
9	ハジロカイツブリ	○	○		
10	キジバト	○	○	○	○
11	カワウ	○	○	○	○
12	アオサギ	○		○	
13	オオバン	○	○	○	○
14	イソシギ	○	○	○	○
15	ユリカモメ	○	○	○	○
16	ウミネコ	○			
17	カモメ			○	
18	セグロカモメ	○	○	○	○
19	オオセグロカモメ	○	○	○	○
20	ミサゴ				○
21	トビ	○	○	○	○
22	ハイタカ		○		
23	オオタカ			○	
24	ノスリ	○	○	○	
25	カワセミ	○			
26	チョウゲンボウ				○
27	モズ		○	○	○
28	ハシブトガラス	○	○	○	○
29	シジュウカラ	○	○	○	○
30	ヒヨドリ	○	○	○	○

表 6 (2) 前回調査結果との比較 (冬季)

No.	種名	第 2 回 (H28-29)		第 3 回 (H29-30)	
		冬季(1 月)		冬季(1 月)	
		北側	南側	北側	南側
31	ウグイス	○	○	○	○
32	メジロ	○	○	○	○
33	ムクドリ			○	○
34	シロハラ	○	○		
35	アカハラ		○		
36	ツグミ	○	○	○	○
37	ジョウビタキ	○	○		○
38	イソヒヨドリ		○		○
39	スズメ	○		○	○
40	ハクセキレイ	○	○	○	○
41	カワラヒワ	○	○	○	○
42	アオジ	○	○	○	○
合計		30 種	27 種	28 種	31 種
		34 種		35 種	

表 7 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 3 回)

No.	種名	調査時期					
		第 1 回 (H27 夏～28 春)		第 2 回 (H28 秋～29 夏)		第 3 回 (H29 秋～)	
		北側	南側	北側	南側	北側	南側
1	オカヨシガモ				○		○
2	マガモ		○	○	○		○
3	カルガモ	○	○	○	○	○	○
4	オナガガモ				○	○	○
5	ホシハジロ						○
6	スズガモ	○	○	○	○	○	○
7	ウミアイサ		○				
8	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○
9	ミミカイツブリ			○			
10	ハジロカイツブリ	○	○	○	○		
11	キジバト	○	○	○	○	○	○
12	カワウ	○	○	○	○	○	○
13	ササゴイ		○				
14	アオサギ	○	○	○	○	○	○
15	ダイサギ	○	○	○	○		
16	コサギ	○	○	○	○		
17	オオバン	○	○	○	○	○	○
18	コチドリ	○	○		○		
19	イソシギ	○	○	○	○	○	○
20	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○
21	ウミネコ	○	○	○	○	○	○
22	カモメ	○	○			○	
23	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○
24	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○
25	コアジサシ	○	○	○	○		
26	ミサゴ	○		○			○
27	ハチクマ	○					
28	トビ	○	○	○	○	○	○
29	ハイタカ		○		○		
30	オオタカ	○		○	○	○	
31	ノスリ		○	○	○	○	
32	カワセミ			○			○
33	チョウゲンボウ		○				○
34	ハヤブサ			○	○		○
35	モズ			○	○	○	○
36	カケス				○		
37	オナガ			○	○	○	○
38	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
39	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○
40	ヒバリ						○
41	ツバメ	○	○	○	○		
42	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○
43	ウグイス	○	○	○	○	○	○
44	メジロ	○	○	○	○	○	○

表 7 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 3 回)

No.	種名	調査時期					
		第 1 回 (H27 夏～28 春)		第 2 回 (H28 秋～29 夏)		第 3 回 (H29 秋～)	
		北側	南側	北側	南側	北側	南側
45	オオヨシキリ			○			
46	ムクドリ	○	○	○	○	○	○
47	コムクドリ				○		
48	シロハラ	○	○	○	○		
49	アカハラ	○			○		
50	ツグミ	○	○	○	○	○	○
51	ジョウビタキ	○		○	○	○	○
52	イソヒヨドリ	○	○		○		○
53	キビタキ	○				○	
54	スズメ	○	○	○	○	○	○
55	キセキレイ			○			
56	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○
57	セグロセキレイ				○		
58	タヒバリ						○
59	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○
60	ホオジロ	○		○	○		
61	アオジ	○	○	○	○	○	○
62	オオジュリン			○			
63	ドバト	○	○				
合計	63 種	41 種	40 種	44 種	47 種	32 種	38 種
		47 種		53 種		42 種	

表 8 前回調査との比較（船上センサス結果（第 2～3 回））

No.	種名	調査時期			
		冬季(1 月)			
		第 2 回(H29)		第 3 回(H30)	
		北側	南側	北側	南側
1	オカヨシガモ	0	0	0	2
2	マガモ	0	0	0	6
3	カルガモ	2	0	0	7
4	オナガガモ	0	0	2	0
5	ホシハジロ	0	0	0	4
6	スズガモ	76	67	25	32
7	カンムリカイツブリ	2	0	0	0
8	ハジロカイツブリ	1	1	0	0
9	キジバト	3	1	0	4
10	カワウ	63	48	45	90
11	アオサギ	1	0	1	0
12	オオバン	6	4	1	7
13	イソシギ	3	1	0	0
14	ユリカモメ	4	0	2	5
15	セグロカモメ	0	0	1	1
16	オオセグロカモメ	1	0	0	1
17	トビ	0	0	0	1
18	オオタカ	0	0	1	0
19	ノスリ	1	1	1	0
20	カワセミ	1	0	0	0
21	ハシブトガラス	1	0	1	2
22	シジュウカラ	0	0	4	2
23	ヒヨドリ	0	4	9	7
24	シロハラ	1	0	0	0
25	ツグミ	2	0	0	2
26	スズメ	1	0	7	0
27	ハクセキレイ	3	2	0	0
28	カワラヒワ	0	0	5	4
合計個体数		172	129	105	177
合計島別種数		18 種	9 種	14 種	17 種
合計種数		19 種		22 種	

表 9 前回調査との比較（ラインセンサス結果（第 2～3 回））

No.	目名	科名	種名	調査時期							
				冬季(1月)							
				第 2 回 (H29)				第 3 回 (H30)			
				L1(北側)		L2(南側)		L1(北側)		L2(南側)	
				個体 数	優占 度	個体 数	優占 度	個体 数	優占 度	個体 数	優占 度
1	カモ	カモ	スズガモ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
2	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
3			ハジロカイツブリ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
4	ハト	ハト	キジバト	4	5%	9	7%	3	2%	9	6%
5	カツオドリ	ウ	カワウ	25	28%	35	29%	27	22%	22	15%
6	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%
7	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	4	3%	0	0%	0	0%
8		カモメ	ユリカモメ	1	1%	0	0%	1	1%	26	18%
9			セグロカモメ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
10	スズメ	モズ	モズ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
11		カラス	ハシブトガラス	1	1%	0	0%	1	1%	2	1%
12		シジュウカラ	シジュウカラ	1	1%	2	2%	2	2%	2	1%
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	23	26%	45	37%	10	8%	10	7%
14		メジロ	メジロ	10	11%	4	3%	2	2%	0	0%
15		ヒタキ	シロハラ	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%
16			ツグミ	5	6%	10	8%	0	0%	20	14%
17			ジョウビタキ	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%
18		スズメ	スズメ	11	13%	0	0%	70	57%	53	36%
19		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	1	1%	1	1%	0	0%
20		アトリ	カワラヒワ	0	0%	0	0%	2	2%	2	1%
21		ホオジロ	アオジ	4	5%	5	4%	2	2%	1	1%
合 計	7 目	17 科	21 種	88	100%	122	100%	122	100%	148	100%
				13 種		15 種		12 種		11 種	

表 10 (1) 前回調査との比較 (定点観察調査結果 (第 2～3 回))

No.	種名	調査時期															
		冬季(1月)															
		第 2 回 (H29)								第 3 回 (H30)							
		北側				南側				北側				南側			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	オカヨシガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
2	スズガモ	9	21%	3	9%	1	3%	0	0%	2	3%	1	5%	1	1%	0	0%
3	カンムリカイツブリ	2	5%	0	0%	0	0%	1	2%	1	2%	0	0%	2	2%	0	0%
4	ミミカイツブリ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	ハジロカイツブリ	0	0%	2	6%	2	6%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6	キジバト	0	0%	0	0%	4	12%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	17	23%
7	カワウ	10	24%	2	6%	7	21%	14	26%	27	47%	12	60%	75	63%	14	19%
8	オオバン	2	5%	4	13%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	2	2%	0	0%
9	イソシギ	1	2%	0	0%	3	9%	1	2%	0	0%	1	5%	1	1%	0	0%
10	ユリカモメ	0	0%	1	3%	2	6%	0	0%	7	12%	0	0%	14	12%	27	36%
11	ウミネコ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%
13	オオセグロカモメ	1	2%	1	3%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	トビ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
15	ノスリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
16	ハシブトガラス	0	0%	1	3%	0	0%	3	6%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%
17	シジュウカラ	2	5%	1	3%	0	0%	0	0%	2	3%	1	5%	0	0%	0	0%
18	ヒヨドリ	7	17%	1	3%	6	18%	27	51%	6	10%	2	10%	1	1%	9	12%
19	ウグイス	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%
20	メジロ	4	10%	0	0%	3	9%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
21	ツグミ	0	0%	0	0%	3	9%	0	0%	0	0%	2	10%	0	0%	0	0%
22	ジョウビタキ	0	0%	1	3%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
23	イソヒヨドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%

表 10 (2) 前回調査との比較 (定点観察調査結果 (第 2～3 回))

No.	種名	調査時期															
		冬季(1月)															
		第 2 回 (H29)								第 3 回 (H30)							
		北側				南側				北側				南側			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
24	スズメ	2	5%	8	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	23	19%	4	5%
25	ハクセキレイ	0	0%	1	3%	1	3%	2	4%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
26	カワラヒワ	0	0%	4	13%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
27	アオジ	1	2%	0	0%	0	0%	1	2%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
合計		42	100%	32	100%	33	100%	53	100%	58	100%	20	100%	119	100%	75	100%
		12 種		15 種		11 種		11 種		13 種		7 種		8 種		8 種	



オカヨシガモ



ホシハジロ



スズガモ(重要種)



カンムリカイツブリ(重要種)



カワウ(巣材運び)



カワウ(巣上の個体)



オオバン(重要種)



イソシギ(重要種)

写真 2 (1) 鳥の島で確認した主な鳥類



ミサゴ(重要種)



トビ(重要種)



オオタカ(重要種)



シジュウカラ



ツグミ



スズメ



ハクセキレイ



アオジ

写真 2 (2) 鳥の島で確認した主な鳥類